

平和のための AI 倫理

広島アピール

私たちは広島に集うた。一発の原子爆弾によって一瞬にして廃墟と化し、おびただしい数の無辜の人々が犠牲になった場所なのである。私たち、世界各地から参集した様々な背景を持つ宗教指導者は、国会議員、国連、学术界、ビジネス界、市民社会の代表者とともに、最先端技術である AI の運用のあり方に対し、倫理的・道義的な責任にもとづいた開発・活用を呼びかけるものである。

広島は 79 年前、当時の最先端技術の軍事利用によって、人類に大きな悲劇がもたらされた地である。私たちは、原爆被爆者一人ひとりの実体験の伝承と広島が蓄積してきた平和研究の総合的知見から、如何に最先端技術が人類に多大な影響を与えるかについて深く学んだ。そして原爆死没者慰霊碑に示される「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という「ヒロシマの心」の真意は、核兵器廃絶と恒久平和をどこまでも希求するものであることを、深く心に刻んだのである。

現在、国際社会は環境破壊、経済格差、様々な差別、人権侵害など平和を脅かす諸々の課題に直面しているが、それらは戦争や紛争によって生じている対立と分断と深い関係性がある。世界では第二次大戦以来最多となる 56 の紛争が起きており、また 90 カ国以上が国境を超えた紛争に関与しているとされている。そして、これらの紛争によって想像を絶する凄まじい数の犠牲者が生み出されている。さらに、この対立と分断の深刻な状況は、核戦争の危険性を高めている。広島に集った私たちはこれらの戦争と兵器の問題に、強い懸念の意を表す。

とりわけ、現代の多くの戦争が AI 技術によって促進されていることに注意しなければならない。今や世界の様々な戦場において、AI により自律性を高められた無人機や無人艇などの、自律型致死兵器システムによる攻撃が行われていると言われている。これらの兵器は人間の判断を介在させない攻撃になりかねず、倫理的・道徳的な基準がないままに行われるのである。しかも核兵器に関しても、その使用が人間の関与なしに AI の判断に委ねられるという現実的な危険がある。こうした現状に私たちは深い憂慮の念を禁じ得ない。関係諸国や国連をはじめとする国際社会は、一刻も早くこの危険な事態に対して必要な措置を講ずるべきである。

本日、アジアにおいて初めて「AI 倫理のためのローマからの呼びかけ」の署名式が行われた。この呼びかけは、人間の尊厳を守り、人類と地球の持続可能な発展のために、最先端技術である AI の開発と運用において人類の共通善をその核心におき、誰一人差別することなく、また健全な地球社会の将来にわたる保全を、すべての地球市民と国際社会に要請するものである。

このことへのコミットは、私たちの宗教的信仰によって裏付けられたものである。それは、アジアで長い伝統を持つ宗教など世界の多くの宗教に共通し、歴史の中で受け継がれてきた信仰の教えであり、しばしば「黄金律」と呼ばれるものである。すなわち、自分がしてもらいたくないことを人にするなどという信念に基づくものである。

この宗教的信念に基づき、「平和のための AI 倫理」に集まった私たちは、広島の地から広く国際社会に対し、すべての武力紛争が直ちに終結するよう、平和的な解決手段を追求することを強く呼びかけるものである。さらに私たちは、あらゆる大量破壊手段、とりわけ核兵器の使用禁止と廃絶を求め、そして AI が人類の福祉のみ使用され、生命を破壊し傷つけるために使用されないことがないよう、世界が誓約することを強く要請する。

2024 年 7 月 10 日、広島